

森のムッレ教室とは？

約 60 年前、ヨスタ・フロム氏によって作られたスウェーデン発の子ども向け環境教育です。持続可能な社会形成を目指し、世界 11 ヶ国に広がっています。

(社)日本野外生活推進協会

2017.10.16 発行



ご挨拶

日本野外生活推進協会 代表理事 高見 豊

日頃は、森のムッレ教育にご尽力いただきありがとうございます。リーダーの皆さまにはお変わりなくお過ごしでしょうか。

さて、今年は3年に一度の「森のムッレ国際シンポジウム」開催の年でイギリスのウェールズで開催、フィンランド・イングランド・スコットランド・ウェールズ・アイルランド・スウェーデン・カナダ・日本の8カ国が参加しました。

当協会からは森のムッレの国際交流の場に6名が参加し、日本の活動を紹介することができました。参加して下さった皆さま、ありがとうございました。

相次いで起きたイギリスでのテロ事件など諸事情により、参加者が減ってしまったのは残念でしたが、地元ウェールズの人たちの温かい歓迎を受け、素晴らしい自然環境の中で「森のムッレ」を愛する人たちとともに、8月2日から7日（5泊6日）までを仲良く過ごせたことは何物にも代えがたいことでした。

日本の発表として、1992年7月26日に誕生した日本野外生活推進協会が25周年を迎えたこと、スウェーデンの多くのリーダーにお世話になり現在があることへの感謝の意と、成功の鍵となったのは何か…チャレンジする課題は何かなどを述べ、「初心忘れず」のたとえあるがごとく、この25周年の節目を機に、信念を新たに一段と躍進していきたいという意志を発表いたしました。

代表者会議の振り返りの中では、各国のゲームの発表が良いスキルの交換となり学ぶことが多くありました。交流会は楽しく盛り上がったこと、言葉はよく通じなくても素晴らしい交流会となったことが発表されました。また、開催地ウェールズが素晴らしいホスピタリティでよく頑張ってくださったこと、今回の開催に感謝していることがすべての国から評価されました。これを機会にUK（イギリス）でのムッレの発展を期待したいと思います。

最後に、代表者会議で次回開催国が決定に至りませんでした。候補地としてフィンランド・スウェーデン・リトアニアが争われました。1年以内に決定することとなっています。

リーダーの皆さまには次回の「森のムッレ国際シンポジウム」には、ぜひご参加ください。

すでにお知らせいたしましたが、11月18日に森のムッレ全国ネットワーク組織代表者会議を開催いたします。この会議では、各団体の現況や活動事例発表を発表していただき、ともにムッレ教育への理解を深め合い、理念を共有したいと思います。

また引き続き、翌11月19日には創立25周年記念式典を開催いたします。

協会の25年の歩みを振り返り、良い節目として躍進への弾みとしたいと思います。

多数の皆さまのご参加をよろしくお願い申し上げます。

理 事

代表理事	高見 豊
理 事	君塚 昌俊
理 事	小山 通子
理 事	西村 恭子
理 事	本庄 賀寿美
理 事	原田 優
理 事	荻野 尚子
理 事	大東 まこ
理 事	芦田 亜也
監 事	足立 邦明
監 事	余田 淳子



事務局

事務局長 高見 幸子

協会事務局事務員

松本 みゆき

ネットワーク事務局事務員

松 枝 純

＊□＊特集 森のムッレ国際シンポジウム in Wales ＊□＊

日程 2017年8月2日(水)～7日(月)

会場 Dare Vally Park

フィンランド、ウェールズ、イングランド、スコットランド、アイルランド、スウェーデン、カナダと日本の8ヶ国からリーダーが参加しました。

8月2日

18:00 ウェールズに到着。

Dare Vally Park (国立公園) の一角の野外活動施設に到着。今大会の活動拠点となる施設。



宿泊棟&テラス

8月4日

開会式



8月3日

オプションツアー ウイスキー工場と滝の見学



ウイスキー工場にて



各国の参加者の皆さんと



滝の見学



夕食会後には地元コーラス隊の歓迎会



ウェールズ ダーレン・ルイス氏



アールン・デビス氏
(生涯教育・文化大臣)



クレイレー・ワーデン氏
(野外教育コンサルタント)



ラーズ・ルンドストラム氏
(スウェーデン野外生活推進協会)



スウェーデン世話役 マグヌス・リンデ氏
シープ・リンデ氏

ワークショップ ローズ氏(イングランド)とジュリエット氏(スコットランド)による「森のムッレ」の紹介



ネイチャー・キンダーガーデンの
視察1日目



8月5日 参加国の発表



スウェーデン



イングランド



スコットランド

ネイチャー・キンダーガーデン 視察2日目



参加国の野外ワークショップ スキル交換会



アイルランド(ハリネズミのゲーム)



フィンランド(魚を捕まえるゲーム)



日本(植物ビンゴゲーム)



スウェーデン(クモの巣ゲーム)



スコットランド(草花や土で染め物しよう)



夕食会 交流会があり、各国が歌や手遊びなどを披露。日本チームは手遊び(みかんの花咲く丘)・歌(上を向いて歩こう)・南京玉簾を発表しました。



イギリスチーム



スウェーデンチーム



アイルランドチーム



フィンランドチーム



日本チーム



8月6日 最終日 森のムッレとムッレの友達に会う



ウェールズ代表
ダレーン氏のムッレ登場



高山の妖精 丘の上からフェルフィーナ登場



川の淵からラクセ登場



ラクセ登場場所に柳の魚が…



ウェールズスタッフによる柳の枝で作る魚のワークショップ



閉会式



ダレーン代表のあいさつ



マグヌス・リンデ氏のあいさつ



宣言文に署名



ウェールズ代表ダレーン&クリスティンご夫妻ありがとうございました。



各国の皆さんと記念撮影

ご参加いただいた皆様のご感想

ムッレを通して世界は一つ 吉積 洋子 リーダー

ロンドンからバスでウェールズへ約4時間、雄大な平野を走り抜ける。

オプションツアー

ウイスキー工場見学と試飲、滝の見学少々雨に打たれながら半日散策。

ネイチャーキンダーガーデンでクニニュータナ・ムッレのファミリー教室見学

子どもたちは自由にのびのびと好きな遊びをしていた。顔も洋服もどろんこ、全然汚れを気にしない。

パンを焼いて食べている子、小川で親子で遊んでいる子、さまざまである。

木陰の良い場所であった。

各国の報告会

高見豊代表理事が日本の活動を報告（高見幸子事務局長が通訳）

各国の実践・スキル交換会では、日本は山野草でピングゲーム紹介。

雨のためテントにムッレ登場、丘に登りフェルフィーナと出会い、ラクセは柳の枝で魚をつくる

滞在中はディアバレーパークに宿泊し、夕食会後はギター演奏や小中学生と婦人部のコーラス、各国の出し物等があり、楽しい時間であった。

ランチは毎食バイキングで大盛で美味、あっという間の5泊6日、皆さんと親しくなり、各々ハグして別れを惜しんだ。

「ムッレにて 集う仲間の 夏楽し」



塩見 和広 リーダー

「ハイ、コリコック」、森の中からヨスタ・フロムの声が聞こえてきそうな森が私たちを迎えてくれた。ロンドンの大都会からわずか約4時間半で、私たちはWales地方の野外活動の公営宿泊施設にいた。

今回のムッレ国際シンポジウムには8カ国（スウェーデン、日本、フィンランド、イングランド、スコットランド、ウェールズ、アイルランド、カナダ）から65名の参加者があった。大会では、ウェールズのダレン会長によるプレゼン、生涯教育兼言語担当大臣と地元の市議会議員の挨拶、森のムッレの国際シンポジウム発足人マグナス氏とシーブ氏のプレゼン、スウェーデンの野外生活推進協会のラース事務局長のプレゼン、大学教員による基調講演、各種のワークショップ、各国の活動報告、各国の野外ゲームの紹介、現地の野外保育園見学、各種の交流会等があった。子どもたちに自然の大切さを教え、健全育成を育む活動を共にに行っているという気持ちでベースにあったので、初めて出会った人々とも10年来の友人であるかのように接することができた。長年の実績と研究に基づくリーダー達の取り組みは、とても勉強になり、国際シンポジウムの醍醐味を味わうことができた。

最後に、ラース事務局長の言葉「Sitting is the new smoking じっと部屋の中に閉じこもっていることは、タバコと同様、健康に悪い」が心に残る。自然界に多くある健全育成の場をもっと活用して、学校関係者だけでなく、行政、企業等との協力体制を強化していく必要があると感じた。学校外の活動を支えるボランティアの育成と協力も各国の課題だと分かった。そして、3年後の再会を約束して世界の友と別れた。



高見 町枝 リーダー

イギリスのウェールズには、昔小説で読んだ憧れの自然豊かな森がありました。空の濃い青と広々とした丘に羊の群れがのんびりと遊んでいました。

視察で一番心に残ったのは、雨が降っても大丈夫な服装で小さな川で遊ぶ二人の3歳の子供と男性保育士の姿でした。雨の中を小さな川が流れていて、橋の下3メートル程のトンネルになっていました。子どもが上からおもちゃを流します。それを保育士が拾っては子どもに渡し、拾っては子どもに渡します。そのたびにキャキャという笑い声と、なんともいえないうれしそうな笑顔で繰り返し、同じような遊びがいつまでも続きました。その姿に魅せられ、そこから離れられませんでした。この一瞬一瞬を精一杯楽しんでいる、たっぷりな時間を心ゆくまで子どもに与えている保育士も楽しんでおられるようでした。普通に思えるなにげない出来事でしたが、このように楽しい経験の積み重ねで学んでいけることを実感した場面でした。

私も元気をもらい、シンポジウムのスケジュールの一瞬一瞬、今ここで体験していることを大切に過ごすことができました。各国から来られた人々とは、言葉が通じなくてもつながっていて分かり合え、楽しく交流ができました。

学んだこと今後の活動に役立てたいと思っています。

福井 理恵 リーダー

私は今年の5月に森のムッレ教室リーダー養成講座を受講したばかりで、活動内容について深く知らないまま国際シンポジウムに参加しました。そのため、今回の参加は森のムッレ教室や自然教育について知るチャンスでもありました。正直、知識不足で恥ずかしい思いをしたことが多々ありました。しかし、参加者の中には、幼稚園教諭や自然教育の専門家など様々な人が参加しており、自然教育への取り組みや思いなどの話を聞くことができましたし、各国の人々が森のムッレ教室をどのように行っているのかを実際に体験することができとても勉強になりました。自然の中で様々な国の人々と一緒に体を動かして交流すれば、言葉や年齢が違っても自然とみんなで楽しめることができる自然の持つ力を改めて感じました。また、雨の中でもカッパを着て泥だらけになって遊ぶ子どもや積極的に自然の中で遊ばせようとする保護者の姿、保護者が安心して子どもを遊ばせることのできる環境から日本で活動を行っていく上での今後の課題など、自分なりに考えるきっかけになりました。また、将来教師になることを目指しているのので、森のムッレの活動を取り入れていければいいなと思います。



スウェーデン本部への表敬訪問



2017年8月15日、スウェーデン野外生活推進協会を訪問、ラース・ルンドストロム事務局長とアンナ・ピクホルムさん(教育担当)がオフィスで出迎え、歓迎を受けました。日本からのプレゼンで現況報告を行い、引き続き、スウェーデン本部の方針とこれからの活動についての考えをラース事務局長から説明を受けました。

協議では、国際化のルールについて、国際組織のために必要な資金の獲得について協議がありました。アンナさんからは、教育担当の立場から、行政へのアプローチの仕方やリーダー養成講座やステップアップのための教材の開発に取り組んでいるとの話を聞きました。

森のムッレの国際化はこれから大切な時であり、本部のリーダーシップが必要であるとの認識を共有することができました。

「森のムッレの国際シンポジウム」を基軸に、教材開発や情報交換・スキルの交換を進め、互いの国におけるリーダーの資質の向上につなげていければと思いました。

今後は、特にフィンランドと日本を除く国々への支援が必要になるとのこと、日本も国際組織の発展のために協力していくことをお伝えしました。

(写真は左から、高見町枝リーダー、高見幸子事務局長、高見豊代表理事、ラース事務局長、アンナ教育担当)

文責 高見 豊

第4回ネットワーク組織代表者会議と 協会創立25周年記念式典のお知らせ

第4回ネットワーク組織代表者会議

日時：2017年11月18日(土)
13時30分～

協会創立25周年記念式典

日時：2017年11月19日(日)
9時～13時30分

両会場：ユニトピアささやま
(兵庫県篠山市矢代231-1)

<http://unitopia-sasayama.pgu.or.jp/>

ネットワーク組織代表者会議は、事務局からの近況報告、ネットワーク組織の皆さまからの活動報告、今後の課題など、これからの活動のための情報共有の場として開催いたします。

また、翌日の協会創立25周年記念式典では、ハーモニカ奏者・絵本作家の吉森正憲氏(もり・けん氏)による講演会、氷ノ川太鼓によるアトラクションなどを予定いたしております。ぜひご参加ください。

くわしくは、後日メールにてリーダーの皆さまにご案内させていただきます。

2017年度

森のムッレ教室リーダー養成講座のお知らせ

201回 新潟県胎内市 新潟県少年自然の家

2017年10月21日(土)～22日(日)

202回 兵庫県西宮市 甲山自然の家

2017年11月11日(土)～12日(日)

ご参加お待ちいたしております。

ムッレ市島

フェイスブックページを開設

森のムッレ教室を毎月開催されている兵庫県丹波市市島町のムッレ市島様、フェイスブックページを開設されました。

これからの活動日程や報告などの発信をされますので、要チェックです。

<https://www.facebook.com/mulle.ichijima/>



□ 投稿文募集のお知らせ *□*

ご自身のムッレ活動や野外活動に関する様々な情報、ご意見・ご感想などを募集しています!

①コラム名、②著者名、③所属先名、④電話番号、④E-mail をご入力の上、投稿文と活動写真(1～2枚)を添えて、E-mail にてお送り下さい。ご投稿お待ちしております。

担当：松枝 E-mail: mulle2639@gmail.com